

# 第3期 事業報告

2022年6月1日～2023年5月31日

一般社団法人  
こども女性ネット東海

# 事業報告

## 1. 広がる・つながる事業

### (1) 入会促進活動の実施

こども女性ネット東海は、平常時より子ども、女性分野で活動をしてきている個人、事業体がつながり、共に学び実践していくことをねらいの一つとしています。

期間:通年

正会員 8 名、協力会員 15 名

### (2) 交流会の実施

会員やエリヤマネージャーが中心となり、オンライン等で5回交流会を開催しました。

### (3) Facebook、メルマガによる情報発信

Facebook ページは公開、グループはグループ参加者に対し、会員のみならず、市民、企業、政府・行政関係者に対して、こども女性目線での防災・減災の活動について発信しました。

### (4) HP の運営

こども女性ネット東海の趣旨と活動の本旨を伝えるために HP の充実を図りました。基軸事業である、女性防災リーダー育成事業とこどもと女性に安心な任意の避難所開設のためのネットワークづくりのプロジェクトサイトを作成しました。

こどもと女性に安心な任意の避難所開設のためのネットワークづくりのプロジェクトサイトには、こどもと女性の避難生活に役立つ情報の動画作成し、HP へ公開しました。

- ・もしトイレが使えなかったら
- ・もし食べ物がなかったら
- ・もし水がつかえなかったら
- ・もし電気がとまったら
- ・もし眠れなかったら
- ・いざという時逃げられる！おんぶのやり方

## 2. 伸びる事業

### (1) 女性防災リーダー養成講座キックオフフォーラム

災害時に声をあげにくい妊婦・乳幼児・女性・こども・障がい者・高齢者等の命を守るために、日頃から「たすかる活動」としてこども女性目線の防災女性リーダーの養成の必要性和地域づくりについて、東日本大震災や熊本地震において活動された実践者や研究者にご登壇いただき議論を深めました。

日時:2023/1/14(土)  
 会場:中区役所ホール(名古屋市中区栄四丁目1番8号)  
 参加者:会場100名、アーカイブ配信46名



テレビ局や新聞社の方も報道のために取材にきてくださいました。



- 【開会挨拶】秋山則子(一般社団法人子ども女性ネット東海代表理事)
- 【来賓挨拶】野田聖子氏(衆議院議員)、丹羽秀樹氏(衆議院議員) 田島まいこ氏(参議院議員)  
 佐々木菜々子氏(愛知県副知事)、酒井雄一氏(名古屋市防災危機管理局長)
- 【趣旨説明】藤岡喜美子(一般社団法人子ども女性ネット東海執行理事)
- 【基調講演 1】『避難生活で命を守るための誰ひとり取り残さない』災害対応  
 田村太郎(一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事,復興庁復興推進参与)
- 【基調講演 2】『女性視点の避難所運営』  
 五十嵐ゆかり(聖路加国際大学大学院看護学研究科 ウィメンズヘルス・助産学 教授)
- 【基調講演 3】『女性の活躍が災害の困難を軽減する地域づくり』  
 白川由利枝(公益財団法人地域創造基金さなぶり副理事長)

【パネルディスカッション】「地域で日頃から女性が活動し、つながり、さらに広がる。」

パネラー 田村太郎・五十嵐ゆかり・白川由利枝

コーディネーター 藤岡喜美子

【閉会挨拶】富田正美(一般社団法人子ども女性ネットワーク東海代表理事)

東日本大震災以降要援護者の人の名簿をつくることを重視し、避難所は大規模化する方向にあ

ります。また指定避難所となる公共施設は指定管理者制度導入により、実施主体が行政ではなく民間が増えていることから避難所が開設できない場合があります。避難生活について考える必要があります。

また、復興に時間がかかり昔と今では行政ができることは少なくなってきました。さらに共助も弱くなってきています。そのことにより、間接死は孤独死が多くなってきています。子どもと女性へのリスクも高くなってきています。今までとは異なる災害対応が求められています。

子どもと女性目線が大切であること、地域においては子どもと女性が日頃から主体的に活動し、災害発災後も地域で活動している子どもや女性が主体的に活動し、地域づくりを行っていくことを発信しました。

中日新聞に掲載され、NHKにてフォーラムの様子が放送されました。



## <講師>

### 五十嵐ゆかりさん

聖路加国際大学大学院看護学研究科 ウィメンズヘルス・助産学 教授

東京都新宿区、岩手県花巻市で助産師として勤務後、オーストラリアへ留学。

シドニー大学看護学部卒業、修士課程修了。

帰国後、神奈川県立保健福祉大学に勤務しながら外国人母子への支援活動を開始する。

2010年聖路加看護大学大学院博士後期課程修了。

2010年～聖路加看護大学(現:聖路加国際大学)に勤務し、現在に至る。

2011年4月1日～9か月間、岩手県陸前高田市で女性への支援活動を行った。

「東京くらし防災」編集委員

### 白川由利枝さん

公益財団法人地域創造基金さなぶり副理事長

1983年仙台市役所入庁。生活保護のケースワーカーをスタートに企画・広報・男女共同参画・市民協働などの分野で働く。プライベートで1995年より「仙台NPO研究会」に関わり、中間支援組織の立ち上げや政策提言等を行う一方、市が設立したシンクタンクで協働に関する調査研究や実践を重ねてきた。2011年3月東日本大震災発生。5月より市民協働推進部長としてNPO等とともに復興支援にも従事。2020年若林区長を最後に定年退職し、現

在(公社)仙台市シルバー人材センター理事長。

(公財)地域創造基金さなぶりに、2011年6月の設立時から理事として関わり、2019年より副理事長。2021年度休眠預金活用事業「女性のエンパワメントで高める地域の防災力〜リーダー育成助成プログラム」事業総括。

### 田村太郎さん

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事 復興庁復興推進参与

兵庫県伊丹市生まれ。阪神・淡路大震災で外国人被災者支援や復興まちづくりに携わり、2004年4月からIIHOE研究主幹として、NPOのマネジメントサポートや自治体との協働にテーマを移し、非営利民間の立場から地域社会を変革するしくみづくりに取り組む。2007年1月に「ダイバーシティ研究所」を設立。代表として、CSRや自治体施策におけるダイバーシティ推進に従事。東日本大震災を受けて内閣官房に発足した「震災ボランティア連携室」で企画官に就任。被災地のニーズ把握や震災ボランティア促進のための施策立案を担当。14年4月からは復興庁・復興推進参与としていまも東北復興に携わる。大阪大学客員准教授、明治大学大学院兼任講師。共著に「阪神大震災と外国人」「つないで支える」「企業と震災」などがある。

### 藤岡喜美子さん

一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事

公益社団法人日本サードセクター経営者協会 執行理事  
防災士

東京海上火災保険(株)勤務。30代で婦人会長、1999年町議会議員。2004年(特非)市民フォーラム 21・NPO センター事務局長。2009年(公社)日本サードセクター経営者協会(JACEVO)設立コアメンバー。東日本大震災、熊本地震等にて被災地の支援活動を行う。著書は「早わかり子ども子育て支援新制度」「稼ぐNPO」等

## (2) 女性防災リーダー養成講座(第1クール)

日頃より、女性がこども・女性目線で地域とのつながりを強くし、自ら進んで活動し、いざという時に発言力・行動力を発揮できるように、講師は研究だけでなく、全国各地の被災支援の経験があり、その講師と共にワークショップを行ったり、避難所運営訓練を行ったり、具体的にアクションをおこすことができるカリキュラムとしました。

日程:2023/2/18(土)、25(土)、3/4(土)、11(土)、18(土)、19(日)、25(土)

会場:NPO プラザなごや 3階(名古屋市北区平安一丁目9番22号)

または オンライン

参加者:32名

<p><b>公開講座</b> 2023/2/18 (土) 9:00~16:10</p>	<p>災害多発時代に求められる地域防災 誰ひとり取り残さない災害対応に向けて 避難所からのコミュニティの形成 助かった命を守るために過去の大規模災害から学ぶ</p>	<p>田村太郎 田村太郎 吉村静代 藤岡喜美子</p>
<p>2023/2/25 (土) 9:00~16:10</p>	<p>リーダーシップとマネジメント、チーム構築 こどもの権利、WS 普通の食事が食べられない等アレルギー対策など 障害者、高齢者、外国人等配慮が必要な人へのケア</p>	<p>藤岡喜美子 秋山則子 小川雄二 薬師寺道代</p>
<p>2023/3/4 (土) 9:00~16:10</p>	<p>地域ニーズをふまえた被災者支援の在り方 災害ケースマネジメントの考え方と実務 被災地支援からみえてきたもの 地域防災の未来への取組と諸問題 WS 地域防災への参画と女性ならではの取組は?</p>	<p>田村太郎 田村太郎 藤野龍夫 山口智雄</p>
<p>2023/3/11 (土) 9:00~16:10</p>	<p>女性へのケア 1 女性へのケア 2 子ども(幼児・児童)へのケア 1 子ども(幼児・児童)へのケア 2</p>	<p>五十嵐ゆかり 五十嵐ゆかり 塩崎美穂 塩崎美穂</p>
<p><b>宿泊研修</b> 2023/3/18 (土) 9:00~16:00</p>	<p>これまでの振り返り 避難所の実体と日頃の備え 熊本学園の避難所運営の取り組み ~配慮が必要な方へのケアを考える~</p>	<p>藤岡喜美子 藤野龍夫 黒木邦弘</p>

<p>宿泊研修</p> <p>2023/3/19 (日) 9:00~15:00</p>	<p>HUGを使った避難所開設のシミュレーション</p>	<p>黒木邦弘</p>
<p>2023/3/25 (土) 9:00~15:00</p>	<p>研修生による地域での活動の一步を発表 アドバイザーからのコメント、意見交換 交流会</p>	<p>田村太郎 塩崎美穂 藤岡喜美子 富田正美</p>





養成講座の募集を行い25名公募のところ49名の応募があり、受講希望者全員の面談を行い、単なる知識習得のためでなく、地域で本気で活動する意欲のある女性を受講決定しました。同時に地域で女性が活動するにあたっての課題をヒヤリングしました。また重点自治体の市長や、担当部局と意見交換を行い、協力をお願いしました。講座で使用し、受講生が受講後地域で活動するときにつかっていただけのようにこども女性目線の HUG カードの演習をおこないました。また日本赤十字愛知支部との連携について協議しました。

< 補講 >

女性防災リーダー育成事業サテライト補講(豊橋会場)

日時:2023年5月6日(土)13:40~16:30

内容:熊本学園の取り組み(黒木邦弘 熊本学園大学 録画)

大規模被災地から学ぶ(藤岡喜美子)

HUG 演習

西尾市、豊橋市、田原市の受講生が中心になり、地域の自主防災組織のかたや防災の活動をしてみえるからに声をかけ、サテライト補講を行いました。

女性防災リーダー育成事業サテライト補講(伊勢会場)

日時:2023年4月16日(日)9:00~12:00

内容:熊本学園の取り組み(黒木邦弘 熊本学園大学 録画)

大規模被災地から学ぶ(藤岡喜美子)

HUG 演習

伊勢市、松阪市、多気町の受講生が中心となり、伊勢市の防災センターにて、サテライト補講を行いました。

## 田村太郎さん

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事 復興庁復興推進参与

兵庫県伊丹市生まれ。阪神・淡路大震災で外国人被災者支援や復興まちづくりに携わり、2004年4月からIIHOE研究主幹として、NPOのマネジメントサポートや自治体との協働にテーマを移し、非営利民間の立場から地域社会を変革するしくみづくりに取り組む。2007年1月に「ダイバーシティ研究所」を設立。代表として、CSRや自治体施策におけるダイバーシティ推進に従事。東日本大震災を受けて内閣官房に発足した「震災ボランティア連携室」で企画官に就任。被災地のニーズ把握や震災ボランティア促進のための施策立案を担当。14年4月からは復興庁・復興推進参与としていまも東北復興に携わる。大阪大学客員准教授、明治大学大学院兼任講師。共著に「阪神大震災と外国人」「つないで支える」「企業と震災」などがある。

## 五十嵐ゆかりさん

聖路加国際大学大学院看護学研究科 ウィメンズヘルス・助産学 教授

東京都新宿区、岩手県花巻市で助産師として勤務後、オーストラリアへ留学。

シドニー大学看護学部卒業、修士課程修了。

帰国後、神奈川県立保健福祉大学に勤務しながら外国人母子への支援活動を開始する。

2010年聖路加看護大学大学院博士後期課程修了。

2010年～聖路加看護大学(現:聖路加国際大学)に勤務し、現在に至る。

2011年4月1日～9か月間、岩手県陸前高田市で女性への支援活動を行った。

## 秋山則子さん

一般社団法人こども女性ネット東海 代表理事

特定非営利活動法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長

特定非営利活動法人三重県子どもNPOサポートセンター 副理事長

「チャイルドライン MIE ネットワーク」常任理事

すべてのこどもが、自分に誇りと自信を持ち、自ら考え責任を持って行動できるようになるために活動をしている。三重県少子化対策推進県民会議委員、みえ次世代育成応援ネットワーク運営委員、みえの学力向上県民運動推進会議委員、三重県人権施策審議会委員、公益財団法人三重県文化振興事業団理事等歴任

## 富田正美さん

一般社団法人こども女性ネット東海代表理事

ハーレーサンタ CLUB NAGOYA 代表

1981年から愛知県職員として愛知県教育委員会で教育行政を中心に勤務。在職中の2009年に「ハーレーサンタ CLUB NAGOYA」を設立。オレンジリボン運動の周

知・児童虐待の防止を中心に、困難を抱えた子どもたちの支援を行う。2022 年まで母子生活支援施設の施設長。ほか、東日本大震災復興支援団体や自立援助ホームの立ち上げに関わる。

### 藤岡喜美子さん

一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事  
公益社団法人日本サードセクター経営者協会 執行理事  
防災士

東京海上火災保険(株)勤務。30代で婦人会長、1999年町議会議員。2004年(特非)市民フォーラム 21・NPO センター事務局長。2009年(公社)日本サードセクター経営者協会(JACEVO)設立コアメンバー。東日本大震災、熊本地震等にて被災地の支援活動を行う。著書は「早わかり子ども子育て支援新制度」「稼ぐNPO」等

### 吉村静代さん

益城だいすきプロジェクト「きままに」代表理事  
防災士

1992年「益城まちおこし塾」、1994年益城町ボランティア連絡協議会、1997年阪神淡路大震災を教訓に「防災ボランティア益城」、1998年「傾聴ボランティアましき」等結成。2016年4月に発生した熊本地震では、行政やボランティアに頼るだけでなく指定避難所の自主運営に尽力した。避難所のコミュニティを仮設住宅につなぎ、仮設住宅のコミュニティを継続するために新たな拠点活動を展開

### 小川雄二さん

桜花学園大学副学長・名古屋短期大学教授  
名古屋短期大学附属幼稚園長  
名古屋大学大学院農学研究科博士課程修了。

社会活動としてアレルギー支援ネットワーク副理事長、全国小児栄養研究会代表など。子ども時代の食の大切さを多くの人に伝えることをライフワークにして活動。著書に「幼児期の保育と食育」「五感イキイキ！心と体を育てる食育」「食物アレルギーの基礎と対応」等

### 薬師寺道代さん

医師・医学博士、元参議院議員

1989年東京女子医科大学医学部卒業。2005年医療経営・管理学修士号取得。障がい者スポーツ医・日本医師会認定産業医・社会医学指導医。参議院在職中は、厚生労働委員会・災害特別委員会・予算委員会で医療政策や女性政策・災害医療な

どを中心に政策を実現。

### 藤野達夫さん

「災害復旧支援ボランティア チームふじさん」代表  
「小牧市災害ボランティア ネットの会」メンバー  
「一寸奉仕」メンバー  
「南相馬市ボランティア活動センター」メンバー

2012 年福島県南相馬市で災害復興支援活動開始。2014 年広島市豪雨。2015 年関東・東北豪雨。2016 年熊本地震。2017 年九州北部豪雨。2018 年大阪北部地震、広島県豪雨、北海道胆振地方地震。2019 年台風 19 号。2021 年福島県沖地震、島根県 豪雨 、西日本豪雨。2022 年石川県豪雨。「できる時にできる所でできる事をする」

### 山口智雄さん

豊橋市岩田校区自主防災組織会長

会社員(研究員)。2009 年岩田校区中岩田二区自治会長。とよはし防災リーダー講座受講、防災士取得。2010 年:岩田校区運動会で始めた防災リレー(応急担架搬送リレー, バケツリレー)の企画担当。また、同年から開始した岩田校区防災訓練において記録担当。2019 年:岩田校区自主防災会会長

### 塩崎美穂さん

東洋英和女学院大学人間科学部保育こども学科准教授

静岡県清水市生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学(教育学修士)後、お茶の水女子大学生生活科学部講師、尚絅大学短期大学部幼児教育学科准教授、日本福祉大学 子ども発達学部子ども発達学科 准教授を経て、2014 年 10 月から現職。専門は教育学・保育思想史・比較文化論。著書には、『保育士養成講座 12 巻 保育者論』(全国社会福祉協議会、2012 年)『教育原理－保育実践への教育的アプローチ』(樹村房、2010 年)『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院、2009 年)私たちが考える「すべての子ども」のための保育制度』『現代と保育』(ひとなる書房、2012 年)などがある。

### 黒木邦弘さん

熊本学園大学社会福祉学部教授

2016 年熊本地震では熊本学園大学が開設した避難所運営にかかわる。2020 年豪雨災害では、熊本 DWAT の活動に学生と共に帯同し、球磨村の避難所および福祉避難所の開設を支援。共著『ソーシャルワークを「語り」から「見える化」する－7 次元統合モデルによる解析』熊本学園大学編、『平成 28 年熊本地震大学避難所45日～

## 障がい者を受け入れた熊本学園大学震災避難所運営の記録～』等

### (3) 大規模被災地視察下見

2023年5月18日(木)19日(金)

視察先や関係者の方と打ち合わせを行いました。

東松島市、東松島市震災復興伝承館、美馬森八丸牧場(東松島市大塚字三反田 22-1)、石巻市子どもセンター「らいつ」(宮城県石巻市立町1丁目6-1) 荒木裕美さん、宿泊先のホテル観洋、ホテル観洋で事例報告いただく、阿部民子さん(民子の海パック)、内海明美さん(ガレキの中のカフェ)、伊藤俊さん(南三陸町語り部)、南三陸 311メモリアル、石巻市大川小学校(〒986-0111 宮城県石巻市釜谷字葦島 94)にて大川伝承の会 只野英昭さん、徳水利枝さん 雄勝ローズファクトリーガーデン(宮城県石巻市雄勝町雄勝字味噌作 34-2)

### (4) 任意の避難所運営リーダー養成講座

～自分達でできることから、始めませんか?～

災害発災後、声を上げにくいこども・女性が安心して暮らせる環境を整えるために、私たちは「こどもと女性に寄り添う、任意の避難所」の開設準備を考えたいと思われるかたとともに学びました。最終回には受講生お一人お一人にアクションプランを発表していただきました。

日時:2023/2/19(日)、26(日)、3/ 5(日)、12(日)、21(火)

場所;オンライン、ウイング愛知 1008(3/21(火)のみ)

参加者:46名

2023/2/19 (日)	① 避難生活の困難・課題と対策の方向性 ～国のガイドラインも踏まえて～ ②避難所運営のリーダーに女性を!	浅野幸子
------------------	--	------



2023/2/26 (日)	③被災地から学ぶ(こどもと女性に安心な避難所) 事例報告	平岡敦子 黒木知子
	④被災地から学ぶ(こどもと女性に安心な避難所) トーク	平岡、黒木 藤岡、秋山
2023/3/5 (日)	⑤こどもへのケア1 ⑥こどもへのケア2	塩崎美穂
2023/3/12 (日)	⑦避難所運営の基礎知識	伊藤美恵子
	⑧避難所での健康管理、感染対策、アレルギー対策	薬師寺道代
2023/3/21 (火)	⑨わがまちではどうする。どう動く。	田村太郎

< 講師 >

**浅野幸子さん**

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表

早稲田大学地域社会と危機管理研究所  
招聘研究員



発表の様子

阪神・淡路大震災に際して学生ボランティアから国際協力NGOのスタッフとなり、在宅避難者・仮設住宅・全焼地域の復興支援などに4年間従事。その後、(財)消費生活研究所などで事務局・研究員として勤める。この間、働きながら法政大学院修士課程修了(政策科学修士)。2011年に発足した東日本大震災女性支援ネットワークの活動に参加。2014年より、後継団体の減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表。主な分野は地域防災、災害とジェンダー・多様性。各地で、防災講演・講座・研修を行いながら、国の「避難所運営ガイドライン」(2016)「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」(2020)などにも関わる。

**平岡敦子さん**

倉敷市立短期大学保育学科・専攻科保育臨床専攻

NICUを持つ周産期病棟で助産師として勤務後大学にて看護学・助産学教育にかかわったのちにフリーランス助産師として独立。地域母子保健や母子ケア、性暴力被害者支援やDVに関する活動などにかかわったのち、現任教で保健や乳児に関

することを教えている。平成 30 年豪雨災害では被災学生支援及び倉敷市の被災直後の子育て支援と被災保育施設支援を経験、これを通じて被災家族や被災保育施設勤務者、被災地支援者の支援にもかかわる。北海道出身 助産師 レジリエンスファシリテーター、アウェア加害者更生ファシリテーター、SANE(性暴力被害者支援専門看護職)。性暴力被害者支援ネットはるねっと(広島県)代表

### 黒木知子さん

nail salon lit

中 3 受験生の現役シングルマザー

保育士トータル 8 年半を経て離婚を機に、保育士をしながらネイルの勉強、検定取得。ネイリストへ転職。転職後 1 年で 2018 年西日本豪雨災害により、勤務などの問題より解雇。ママ達による被災地支援団体のコミュニティの場で、ネイルの提供を始めた。口々に癒された〜など、喜んでもらえ、今後この真備の復興を近くで見たい! と思い、自宅の再建と同時に併設させたサロンをオープン。

### 塩崎美穂さん

東洋英和女学院大学人間科学部保育こども学科准教授

静岡県清水市生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学(教育学修士)後、お茶の水女子大学生生活科学部講師、尚絅大学短期大学部幼児教育学科准教授、日本福祉大学 子ども発達学部子ども発達学科 准教授を経て、2014 年 10 月から現職。専門は教育学・保育思想史・比較文化論。著書には、『保育士養成講座 12 巻 保育者論』(全国社会福祉協議会、2012 年)『教育原理—保育実践への教育学的アプローチ』(樹村房、2010 年)『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院、2009 年)私たちが考える「すべての子ども」のための保育制度』『現代と保育』(ひとなる書房、2012 年)などがある。

### 伊藤三枝子さん

清流の国ぎふ女性防災士会 会長

清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター

岐阜県内及び近隣県にて、女性目線の避難所設営訓練 HUG(ハグ)の指導、地図を読み取り地域の問題点を知る DIG、子ども、障害者、外国人など要配慮者のための防災活動、家庭や学校などにおいて日常生活の防災力向上を目指し、講演会や研修会などの活動を行っている。地域においては複数の町による避難所運営委員会を設立、合同防災訓練を通じ非常時における協力体制の構築活動をしている。主な災害ボランティア活動、2011 年東日本大震災、岩手県、宮城県。平成 30 年 7 月豪雨では、関市、広島市、倉敷市真備町、平成 31 年台風 19 号では長野市などで活動。

### 薬師寺道代さん

医師・医学博士・元参議院議員

1989年東京女子医科大学医学部卒業。2005年医療経営・管理学修士号取得。障がい者スポーツ医・日本医師会認定産業医・社会医学指導医。参議院在職中は、厚生労働委員会・災害特別委員会・予算委員会で医療政策や女性政策・災害医療などを中心に政策を実現。

### 田村太郎さん

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事  
復興庁復興推進参与

阪神・淡路大震災で外国人被災者支援や復興まちづくりに携わり、2007年「ダイバーシティ研究所」を設立。自治体や企業の施策を通じた人の多様性に配慮のある社会の形成に取り組んでいる。東日本大震災直後に内閣官房「震災ボランティア連携室」企画官に就任。現在も復興庁・復興推進参与として東北復興にも従事している。共著に「阪神大震災と外国人」「つないで支える」「企業と震災」等がある。

### 藤岡喜美子さん

一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事  
公益社団法人日本サードセクター経営者協会 執行理事

東京海上火災保険(株)勤務。30代で婦人会長、1999年町議会議員。2004年(特非)市民フォーラム21・NPOセンター事務局長。2009年(公社)日本サードセクター経営者協会(JACEVO)設立コアメンバー。東日本大震災、熊本地震等にて被災地の支援活動を行う。著書は「早わかり子ども子育て支援新制度」「稼ぐNPO」等

### 秋山則子さん

一般社団法人こども女性ネット東海代表理事  
NPO法人三重みなみ子どもネットワーク理事長  
NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター副理事長  
チャイルドヘルプラインMIEネットワーク常任理事

すべてのこどもが、自分に誇りと自信を持ち、自ら考え責任を持って行動できるようになるために活動をしている。三重県少子化対策推進県民会議委員、みえ次世代育成応援ネットワーク運営委員、三重県医療審議会地域医療対策協議会委員、みえの学力向上県民運動推進会議委員、三重県人権施策審議会委員、公益財団法人三重県文化振興事業団理事等歴任。

## (5)「こどもと女性目線が避難生活を変える」シンポジウム

こどもと女性に寄り添う、任意の避難所となる地域の新たな拠点づくり事業

災害時にこども・女性が安心して生活することができる任意の避難所開設準備に伴い、地域とのつながりの重要性、女性リーダーの必要性についてなど被災地で活動された実践者や研究者、内閣府にご登壇いただきました。また、こどもと女性が地域で主体的に取り組む防災・減災活動についてパネルディスカッションを行いました。

日程:2023/3/21(火)

会場:ウインクあいち 1002 会議室(名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38)

オンライン

参加者:会場 60 名、オンライン 32 名



**【開会挨拶・趣旨説明】**

秋山則子(一般社団法人子ども女性ネット東海代表理事)

富田正美(一般社団法人子ども女性ネット東海代表理事)

**【第1部】**

「子どもと女性も安心できる避難生活の備え」

田村太郎氏(一般社団法人ダイバーシティ研究所)

大規模災害における避難所の状況、これまでの防災のあり方では対応できないこと、被災者の声を伝えながら災害が起きる前に何をすべきかの問題提起がなされました。

「男女共同参画の視点からの防災・災害対応」

野口孝子氏(内閣府男女共同参画局総務課専門職)

女性目線の防災減災の活動がなぜ進まないか、今後進めていくにはどうすればよいかをお話頂きました。

「子どもと女性のための避難所の健康管理・感染対策」

薬師寺道代氏(医師、元参議院議員)

まず被災者の現状把握を行う。次に衛生対策として、土足の禁止、トイレを清潔にすることの重要性を伝えました。食事、空気、消毒、感染症対策、熱中症、アレルギー対策などについて説明がなされました。

**【第2部】**

「子どもと女性が安心できる任意の小規模避難所」の事例報告がなされました。

石井直子氏(特定非営利活動法人あいちかすがいっこ)

災害が発災したときにほんとうに開設できるのか。発災時、松元(かすがいっこ代表)が春日井市内に居る場合は開設可能。(自宅が徒歩 10 分圏内)。スタッフの小菅(看護師)もスタッフとして集合(徒歩 30 分圏内)できます。妊婦さんが避難した場合の体制を整えています。助産師梅木は、交通網が途絶えた際自転車でも来ることができます。災害対策本部に入る後藤会長と現在情報共有ができているため、今年度中に具体的な案をまとめていきます。

荒木歩氏(守ろうこどもと赤ちゃん代表)

岡崎市内で7カ所の任意の避難所のネットワークができたことの報告がなされました。各拠点の運営のスキルアップと今後の連携について報告がなされた他地域との連携も重要であることが報告された。

「地域ではじめよう、こどもと女性に安心な任意の避難所となる拠点づくり」

会場からの質問は、地域には任意の避難所が開設できるような施設はどのような施設があるか等の質問がだされ、意見交換しました。任意の小規模避難所の必要性や、今後の期待について意見交換がなされました。



最後に役員、エリヤマネージャーより任意の小規模避難所開設のためのネットワークづくり宣言を行いました。

発生 of Xデーが近づいているといわれる南海トラフ地震。震度7の激しい揺れと、30メートルを超える巨大津波が沿岸部を襲い、最悪の場合、死者は32万人を超える想定されています。また、東京や大阪・名古屋など広い範囲で都市機能がマヒし、経済的被害も最大でおおよそ214兆円と見られています。これまでにない被害をもたらす南海トラフ地震に備えて私たちは、何を行うべきか考えました。「自分の命は自分で守る」それは、こども・女性も例外ではなく、日頃からの備えが大切です。次に近助、共助の仕組みが必要です。

そこで、私たちは、間接死を少なくするためにも、こどもと女性が支援される対象としてだけでなく、こどもと女性が主体的に活動し、できるだけ早く、日常の安心を取り戻すことができるようにしたいと考えました。

私たちが熊本地震で学んだことがあります。人々の日常が奪われました。長引く余震で、こどもと女性の不安と心身のダメージは大きく、そのような中、熊本市のやまなみこども園とさくらんぼ保育園は、震災直後1日目に自主避難所を開設されました。この自主避難所は、食物アレルギーや障がいを持つこどもにとっても安心な場所であり、不自由な日常の中に、人の温かさや思いやりに満ちた時間に溢れていました。私たちはできるだけ早く日常に戻すことが大切だと思いました。こども・女性の命を守り、安心をつかったやまなみこども園、さくらんぼ保育園の挑戦から学びました。日頃からこどもと女性に対する支援活動を行っているNPO等の子育て支援員や保育士、放課後児童支援員等が、「遊ぶこと」「食べること」

「寝ること」日常の安心をつくっていくことができるというその社会的役割の大切さを学びました。

そこで、私たちのミッションは、東海地域の中学校区にひとつ、地域の人による、地域の資源を活かした、こどもと女性が主体となった、こどもと女性が一日でも早く日常の安心を取り戻すことができる避難所を開設できるように準備し、ネットワークをつくっていきます。



皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

後援:愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会  
日本赤十字社愛知県支部

協力:(特非) あいちかすがいっこ、(認定特非) 葵風、岡崎ベビママのWA、エンパワメントみえ、蒲郡にじの会、(特非) Kids&MamaNPO ねこのて、子育て応援!!0123サークル、(一社) こどもと暮らす ii ねっと、(特非) CONNECT、(特非) SmileyDream、多世代型子育てひろば和っ家、Nishi Tomo、(特非) にこっと、日進 LOVE ラボ、ハーレーサンタ CLUB NAGOYA、はるたねサロン、(一社) ママズケア、(認定特非) 子育て支援のNPOまめっこ、守ろう子どもと赤ちゃん、(特非) 三重みなみ子どもネットワーク、みなまる、みんなのお家 ひなたぼっこ  
翌日中日新聞掲載、当日民放ニュース番組放送され広く啓発活動ができた。

## (6)こどもと女性に安心な任意の小規模避難所開設のための勉強会、避難体験

清流の会岐阜女性防災士会伊藤三枝子氏を各会場の講師に招き、藤岡とともに、任意の避難所開設のためにどのように準備し、備え動いたらよいかを検討しました。実際に宿泊体験を行った施設もありました。

【特定非営利活動法人あいちかすがいっこ】

日時:2023年3月9日(木)(13:00~15:00)

参加者:8名(避難所運営予定者)

施設名:日輪キャピタルカスタマーセンター

施設責任者:松元永己(特定非営利活動法人あいちかすがいっこ理事長)

住所:〒486-0845 春日井市瑞穂通6-17-1 3階、4階(春日井市役所から徒歩10分圏内)



#### 意見交換の内容

- ・自主企画にて利用者対象に宿泊体験を行い、その経験をもとに避難所運営について検討しました。
- ・受け入れ対象について協議しました。
- ・施設の空間の使い方について協議しました。
- ・お産ができるように備えていくこととした。春日井市に対し優先的に水を供給してもらえる

ように申し入れをすることとしました。

- ・必要な備品や備蓄、連絡方法などを検討しました。

#### 【サリーズベース】



日時:2023年3月3日(金)、3月4日(土)

参加者:大人14名こども6名(避難所運営予定者、利用者)

施設責任者:小澤聖子

住所:〒444-0038 愛知県岡崎市伝馬通 5-66

#### 意見交換の内容

- ・予定地は岡崎市登録の子育て支援団体「ベビママ wa」事務所です。
- ・岡崎市役所に隣接する十王公園の向かいに位置しています。
- ・ライフラインが止まった状態で、宿泊体験を行いました。

#### 【一般社団法人チョイス】

日時:2023年3月8日(水)10:00~12:00

参加者:5名(避難所運営予定者)

施設責任者:鈴田愛(一般社団法人チョイス理事長)

住所:名古屋市千種区池下1丁目10番地8号 リベルテ池下605

#### 意見交換の内容

・児童発達支援を行っているのでこどもが毎日きているわけではないという課題があります。

・保護者は学習支援を希望しているので、災害時のための訓練を行うことは難しい。

・出口までの避難訓練、危険個所の点検、備蓄を整備することとしました。

【特定非営利活動法人 SmileyDream】

日時:2023年3月10日(金)

参加者:6名

施設責任者:櫻井雅美

住所:知多郡武豊町六貫山 3-84



#### 意見交換の内容

・一次避難所武豊高校から徒歩5分圏内にあり、指定避難所と連携をとっていきます。  
・指定避難所では過ごしづらさを感じる妊娠期の女性、授乳中の女性の授乳のための拠点としていきます。

・つわりや産前産後の貧血などの体調不良でゆっくりと休みたい女性に向けた環境整備や、助産師や保健師によるオンライン相談、また本法人スタッフの看護師、保育士、社会福祉士によるサポート体制を整えていきます。

・環境整備としては、ポップアップテント、タープ、大人用と乳児用の体重計、血圧計、マットレス、スウィング、アロマオイルなどを準備していきます。

・平常時から子ども図書館や子ども食堂、ママサークル、講座開催、託児などを行っているため、Wi-Fi 設備、おもちゃ、文具は整っている。乳児用おむつ、飲み物、お菓子などローリングストックを始めています。

・不自由な生活が長期化した場合のために、同じような居場所が派生することへの啓発をしていきます。

以上の体験や勉強会で学んで内容をこども女性に安心な任意の避難所開設のためのハンドブックに活用していきます。

#### (7)放課後児童支援員キャリアアップ研修

「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」(平成 26 年厚生労働省令第 63 号)に基づき、放課後児童健全育成事業所(放課後児童クラブ)に配置されている放課後児童支援員等に対して必要な知識及び技術の習得のための研修を実施することにより、放課後児童健全育成の資質向上を図りました。

原則、経験年数概ね5年以上の放課後児童支援員に対し、集合会場とオンラインのハイブリット開催の研修を実施しました。集合会場は尾張地区 8 回、三河地区 2 回、オンラインは 5 回、平日に下記のテーマにて、1 回あたり 205 分の研修を実施しました。

テーマ1 「発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援」

テーマ2 「家庭における養育状況の理解」

テーマ3 「子どもの発達の理解とカンファレンス」

テーマ4 「災害時・緊急時の対応と感染対策」

テーマ5 「人材養成とチーム力」

申込総数:715名/受講生総数:710名

テーマ1	受講者数
12月1日(木) 一宮会場	48
1月30日(月) オンライン	182
1月30日(月) 名古屋A会場	24
総計	254
テーマ2	受講者数
12月12日(月) オンライン	177
12月12日(月) 名古屋A会場	25
1月12日(木) 一宮会場	43
総計	245
テーマ3	受講者数
11月24日(木) オンライン	179
11月24日(木) 名古屋A会場	21
12月13日(火) 名古屋B会場	48
総計	248
テーマ4	受講者数
11月30日(水) オンライン	161
11月30日(水) 名古屋A会場	19
12月15日(木) 岡崎会場	36
総計	216
テーマ5	受講者数
11月18日(金) 豊橋会場	24

1月20日(金) オンライン	158
1月20日(金) 名古屋A会場	21
総計	203



各テーマの満足度は、「非常に満足」「満足」と答えた方は 80%以上であった。テーマ④「災害時・緊急時の対応と感染対策」テーマ③「子どもの発達の理解とカンファレンス」は約 90%の方が「非常に満足」「満足」と答えており、特に評価が高かった。

ワークショップの満足度は、「非常に満足」「満足」と答えた方は、昨年度よりも 5%以上上がり、77%であった。「他の市町村の学童の方、経験年数が違う方と活発な意見交換ができ、よかった。」「それぞれの学童の現状や大変さを共有でき、ともに頑張ろうという気持ちになった」など有意義な時間を過ごせた方が多かった。一方、「時間がもっとあればよかった」「グループで積極的な方が少なかった」「Zoom が不慣れで、グループワークで話すタイミングが難しかった」などという声もあった。

研修で学んだことは、今後に活かそうかという質問に対しては 97%の方が「大いに活かせる」「少しは活かせる」と答えており、有意義な講義になったのではないかと推測される。昨年度参加された方も多く、定期的にこのような研修を受講したいという声も複数あった。集合会場受講生から、以前は、経験年数不足で受講できないことが多かったが、オンライン受講の導入により、希望のテーマを受けることができるようになったとの直接の声を頂いている。

#### (8) 高齢者活躍人材育成事業

放課後児童支援員の補助員のための研修を行いました。

日時:2023年2月1日(水)2日(木)10:00~16:00

場所;常滑商工会議所

参加者:20名

#### (9) 才能はみだしっ子「ギフテッドチルドレン」のセミナー

今、困りごとを抱えている子どもが存在しています。すべてのこどもの多様で多彩な

個性を尊重するように、あたりまえにギフテッドのこどもの個性を大切に育んでいける社会をめざすために、まずは、ギフテッドについて正しく理解し、自分のまわりをみて、こどもの個性を尊重し育成支援できるように学びました。

日程:2022年8月4日(木)

会場:プラザなごや 3階会議室(名古屋市北区平安 1-9-22)

オンライン

参加者:会場・オンライン 71名、アーカイブ配信 183名

<講師>

### 酒井由紀子さん

株式会社リエゾン・デートル代表取締役

世界ギフテッド&タレンティッド・チルドレン協議会日本共同代表

著書:「才能はみだしっ子の育て方」(主婦の友社)

幼少期からの友人が「才能はみだしっ子」であったことがきっかけで、子どもたちを適切にサポートし、その能力を生かせるような教育のあり方に強い関心を持つ。「才能はみだしっ子」に関わる国内および海外の支援団体の取材と交流を重ねている。

### (9) 講師派遣事業

防災・減災の活動について、講師を派遣しました。

① テーマ高齢者・女性・こどもについての防災を考えましょう

日時:2022年9月5日(月)13:00~15:30

場所:愛知県社会福祉協議会会館

講師:藤岡喜美子、野村美里

② 女性が主役の防災講座

日時:2022年10月15日(土)10:00~12:00

場所:蒲郡市役所北集会室

講師:藤岡喜美子

③ できるだけはやく日常に~過去の大規模災害から学ぶ~

日時:2023年1月28日(日)10:00~12:00

場所:東海市芸術劇場

講師:藤岡喜美子

④ 「愛知県災害ボランティア等情報共有会議」

日時:2023年3月14日(火)15:00~17:00

場所:オンライン

講師:青山晃子

### (9) 起業支援・経営支援

こども女性分野、まちづくりの活動をしている NPO 等の起業支援・経営支援を行

いました。

実施団体:1団体

### (10) 拠点整備事業

NPO 等に対し、人と人とのつながり、組織と組織のつながりをつくるために拠点の提供を行いました。

2団体

## 3. 声をだす事業

### (1) 行政・企業などへの提言活動

政府・行政への提言活動を実施しました。

#### ① 関連予算はどうか活用されてきたか～施策を現場から検証する～第1回「災害対策とNPO」

日時:2022年10月26日(木)

場所:立憲民主党本部

プレゼン者:櫻井雅美、猪飼由美子

上記において、関連省庁に対し、子どもと女性が安心できる避難所の準備が必要であることを提言しました。

#### ② 子どもと女性に安心な任意の小規模避難所開設のためのハンドブック作成・配布

輸送先:希望者 82、自治体防災担当課 127、NPO センター

73、子ども分野のNPO144、民間保育園連盟 25、合計 451

ページ数:147 ページ

印刷部数:500部,キンドル版作成



#### 目次(分筆)

はじめに 藤岡喜美子

①小規模避難所の必要性(田村太郎)

②被災地からの学び

やまなみ子ども園の活動から(塩崎美穂)

東日本大震災の支援活動から(五十嵐ゆかり)

③子どもと女性が安心できる避難所運営の基本方針

子どもとともに作りましょう(藤岡喜美子、田村太郎監修)

地域のひとと作りましょう(田村太郎)

④ハンドブックを作りましょう(藤岡喜美子 田村太郎、黒木邦弘監修)

避難生活についてみんなで話し合います(薬師寺道代、小川雄二)

⑤心のケアについて(塩崎美穂、薬師寺道代、田村太郎)

⑥通常の活動を始めるときのことを考えましょう(藤岡喜美子、田村太郎監修)

私たちの想い(こども女性ネット東海役員)

備蓄一覧(藤岡喜美子)

## 4. 組織運営について

### (1) 総会

日時：2022年7月10日(日) 13:00～14:00

開催場所：NPOプラザなごや2階(名古屋市北区平安1-9-22)

出席社員数：出席5名、委任状3名

審議事項

第1号議案 法人2期事業報告について

第2号議案 法人2期決算報告について

第3号議案 役員を選任について

### (2) 理事会

#### ① 法人3期第1回理事会

日時：2022年7月10日(木) 20:30～21:30

開催場所：オンライン

出席理事数：出席5名、委任状3名

協議事項：避難所リーダー養成について

#### ② 法人3期第2回理事会

日時：2022年8月24日(水) 18:00～19:00

開催場所：オンライン

出席理事数：主席6名、委任状2名

協議事項

避難所運営女性リーダー養成講座の開催について

愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修について

自主避難所への備蓄寄付について

ギフトドチルドレンセミナーについて

#### ③ 法人3期第3回理事会

日時：2023年3月18日(土) 18:00～21:00

場所：オンライン

出席理事数：出席3名、委任状2名

協議事項

女性防災リーダー育成事業について

こどもと女性に寄り添う避難所リーダー養成講座シンポジウムについて  
法人4期総会について  
日本非営利評価センターグッドガバナンス認証について  
2023年度休眠預金事業について  
職員募集について

④ 法人3期第4回理事会

日時：2023年4月18日（火）18:30～20:00

場所：オンライン

出席理事数：出席4名、委任状1名

協議事項

ツリー型ロジックモデルシート作成について

東北視察について

以上